

小学5年 社会科「これからの食料生産とわたしたち」

柏市立風早北部小学校 岩崎 敬

1. 単元目標

- 食料自給率や輸入など外国との関わりなどについて調べることを通して、日本の食料生産には問題点があることや、輸入においてどのような事柄を解決しなければならないのかを理解することができる。（知識及び技能）
- ◎食料生産の問題点や解決のための取り組みについて学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多面的・多角的に考えて、食料自給率を上げるべきか、下げるべきか、このままが良いかを考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- 学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多面的・多角的に考えて、これからの食料生産について考えようとする。（学びに向かう力、人間性等）

2. 情報活用能力育成をめざす単元づくり（全6時間扱い）

（1）単元について

教科書では、食の安全や食料の確保など、様々な観点から食料自給率を高めることの重要性について記述されている。しかし、輸入に頼らざるを得ない状況も理解すべきであり、ここでは食料自給率を上げるべきか下げるべきか、またはそのままが良いかを根拠をもって説明させたい。また、多面的・多角的に様々な意見を比較して深めさせたい。そのツールとしてスライドを活用し、資料等を示してアウトプットさせるということを主眼としたい。また、この単元を通して、教科書やインターネットなどから手に入れた情報を精査し、活用できる力を身につけさせたい。

（2）学習計画

	時	学習内容	留意点
1 課題の設定	1	○食料自給率における日本の現状と課題について確認する（ショートレッスン）。	・資料やグラフから、日本の食料生産の現状を読み取り、どのような課題があるのかを確認する。
2 情報の収集	2	○1時間目で学習した内容を柱に、調べ学習を行う。	・学習問題や向けるべき視点を確認し、自分達なりの意見を構築するための調べ学習をする。
3 整理・分析	3	○上げる・そのまま・下げることへのそれぞれのメリットや課題点などをジグソーで確認する。	
	4 本時 5	○班でJamboardを活用し、意見を定める。なぜその意見になるのか、資料を比較・検討し、根拠となる資料をスライドで作成する。	<本時展開参照>

4 まとめ・表現	6	○自分たちの意見を伝え合い、最終的な結論をそれぞれで出す。	・スライドを使い、自分たちの意見をプレゼンする。 ・自分や他者の意見から自分の最終結論をまとめる。
5 振り返り・改善		○単元全体の振り返りを記述し、発表する。	・単元を振り返り、何がわかったかや疑問を記述する。

3. 本時について（本時4/6時間）

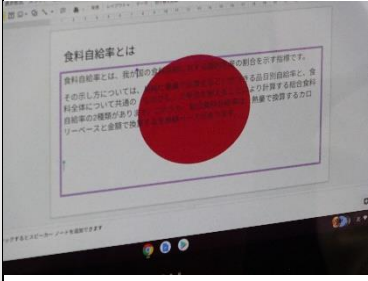
（1）本時の目標

○資料から情報を収集し、得た情報について伝え合ったり、自他の情報を統合して考えたりする活動を通して、自分達なりの解を考えることができる。

（2）本時の展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1. 【学習問題・視点の確認】学習問題や前時までの調べ学習や話し合いの視点を確認する。</p> <p>☆児童に与えた視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率は約40% ・日本人の食生活の変化 ・食の安全性 ・食の確保 	<p>●教師の方でホワイトボードに残しておいた前時までの学習内容を示し、確認させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>④ 日本の食料自給率はこのままでよいのだろうか。</p> </div>		
展開 ① 20分	<p>2. 【班で比較・検討】上げるべき・このまま・下げるべきの3択から選び、その理由を考える。必ず答えに根拠を持たせる。なぜその解にたどり着いたのか、資料などをもとに話し合いをし、多くの視点の中で決定をする。</p> <p style="text-align: center;">《予想される児童の反応》</p> <p>*上げるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産の方が安全。 ・作っている人たちがいなくなるのは困る。 ・ブランドがなくなってしまう。 <p>*下げるべき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料自給率は低いから輸入に頼って様々なものを食べればよい。 ・値段が安い。 ・食料の確保 <p>*そのまま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも極端に変えるべきではない。 ・様々なバランスがとれている。 <p>○答えは一つではないということを伝え、様々な視点から考えられるよう声かけをする。</p>	<p>●自分の考えには、必ず根拠をもたせるよう意識付けさせる。</p> <p>●【タブレット端末】Jamboardに自分の意見の書いてある付箋を表に貼り、意見を考えるもととする。</p>



<p>展開 ② 10分</p>	<p>3. 【根拠を示す】自分の考えを説明するために必要な資料を選び、スライドを作成していく。引用する資料が説明する上で効果的な表現となっているかを意識して作成させる。</p> 	<p>●【タブレット端末】自分の考えを説明するために必要な資料を選び、スライドを作成していく。引用する資料が説明する上で効果的な表現となっているかを意識して作成させる。</p> <p>●班でもう一度比較検討し、各自わかったこと、疑問に思ったこと、解決したいことなどを振り返り記述する。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>4. 自分たちの解とプレゼンの方向性が良いかどうか見直す。</p>	

(3) 情報活用能力のプロセスと育成を図るポイント

課題の設定	情報の収集	整理・分析 ◎	まとめ表現 ○	振り返り改善
-------	-------	---------	---------	--------

○整理・分析のポイント

自分たちが班で導き出した納得解を示せるように場面を設定している。スライドで根拠となる資料を作成することで様々な情報が可視化されるので、児童は端末を活用し意見の比較ができる。

○まとめ・表現のポイント

自分たちの考えた納得解を様々な資料を根拠として理論立てて説明できるようになっている。ここでは一つの視点に絞らず、多面的・多角的な視点から自分達の意見を表現できるようにする。

【参考資料1】情報収集時の段階(2時間目終了時)での児童の振り返り

- ・国内産の物は安心安全のために色々な取り組みがあることがわかった。
- ・外国に比べて、日本は食料自給率が低いことがわかった。
- ・食料生産についてよく知ることができた。そして、自給率をあげなきゃいけないと考えた。
- ・日本の食料自給率が減っていることがわかった。国産品は値段が高くてほとんど輸入に頼っていることがわかった。
- ・日本は、国産品が少なく、輸入に頼っているということがわかった。
- ・日本の食料は安定していると思っていたけど、それは根拠のない推測で本当は外国の輸入に頼っていることを知った。でも今はまだ危機感が持てない。輸入して安定しているから。
- ・食料自給率だけでなく、食の安全についても国はかなり対策していると知った。
- ・もしどんどん食料自給率が下がったらどうなるのが気になった。

【参考資料2】単元が終わった後の児童の振り返り

- ・発展させないという自分の意見があり同じ発展させない意見もたくさん知れた。発展させるや、キープの人の意見も知れて良かった。発展させないと様々なデメリットもあるので、バランスが大事だということがわかった。
- ・他の班の意見を聞いて世界は広いな と、思った。自分たちの班は、食料自給率を50%ぐらいまで上げてからその状態をキープすべきというものだったが、食料自給率を上げたり、下げたり、キープだったりなど様々な意見があったので、他の班と意見を比べて自分の考えをまとめた。
- ・日本は食料自給率を上げたいと思っていることやお米は自給率が高いが他のもののせいで日本全体の食料自給率が下がってしまっていることがわかった。今より増やしたいと思っても、食品ロスや地形問題などがあると知ってそう簡単に増やせないことがわかった。
- ・スライドの発表をしてみんなの班の発表がわかりやすかったからから、これからのスライドづくりではよりわかりやすく根拠のあるスライドを作りたいと思う。
- ・昔は国内での生産でほとんど頑張っていたのに現在では食料自給率が40%だから、日本はもっと頑張らなければいけないと考えることができた。
- ・最初は今のままでも別にいいからキープって思っていたけど、安全性や金がかかるなどのデメリットがあるから上げる方が良いと意見が変わった。
- ・今まで通り、輸入は続けていいと思うが、食料自給率を少しは上げるために努力しても良いのではないかと、思った。

【参考資料3】Jamboard を活用した意見交換の内容

	上げるべき	このままだと どんどん食料自給 率は下がる一方	地産地消な ど考えるべき	安全性
	このままでも いい	今も困 ることは ない		
	下げるべき	値段が 安い	事故率はそ んなに大き く変わらな い資料あり	海外との関係を 考えると輸入が なくなつてはマ ズい
	上げた 方がいい	国民の意識として 安全に対して の必要性が高 まっている	農家など国 内で生産す る人々の願 い	



【参考資料4】児童が作成したスライド

何故上げるべきと考えたか

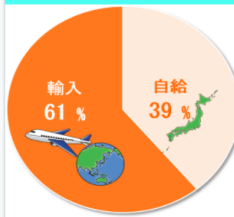
食料自給率はあげたほうがいいのです。

何故かと言うと、日本の食料自給率は約40%。つまり60%を輸入に頼っているということです。最近では国外への輸出するのを制限し、国内への供給を優先している国も増えてきています。もし、日本が輸入している国が輸出を制限してしまったり、大変困ることになります



現在の食料自給率は何%？

現在の食料自給率 → **約40%!**



日本はほとんど輸入に頼っている!

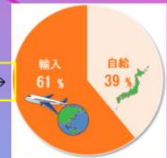
日本と諸外国の人口、土地等の状況 (2017年推定) (図4)

	人口 (万人)	国土面積 (万ha)	森林 面積率 (%)	1人当たり農地面積 (a/人)	1人当たり 自給率 と 自給率
カナダ	3,673	98,798	35	157	45
オーストラリア	2,458	77,412	16	1,602	457
アメリカ	32,508	98,315	32	125	36
フランス	6,484	5,491	31	44	13
ドイツ	8,266	3,576	32	22	6
イギリス	6,673	2,436	13	27	8
イタリア	6,067	3,013	31	21	6
スイス	846	413	30	18	5
日本	12,671	3,780	66	3.5	1

上げる! のメリット

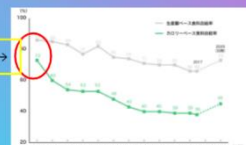
・1965年ほぼ80%以上あるからせめて60%以上あるんじゃない?

現在の食料自給率 →



・60%ぐらいにするという意見 (海外のものを食べたい人も) (お金がかかる...)

1965年の食料自給率 →



・GreenWedにさると少しあがるかもしれない (次ページの写真)

下げるとどうなるの?(デメリット)

2019年5月31日のニュース

- ・ 船の燃料で、地球温暖化に繋がる。
- ・ 検疫所で合格しても、食中毒に当たった人もいる
- ・ 外国の物を食べれない人は、どうするの? っとなる

検査強化の理由について、厚労省の担当者は「昨年、輸入したヒラメとウニで、寄生虫クロドニアや腸炎ヒトリスを原因とする食中毒が発生したため」と説明する。ほかの三つ

地球の自然サイクル

※スマート農業とはロボットや技術、情報通信・技術 (ICT)

※基本とは七右のようなものを表す

※国産ちく産物とは畜産から生産されるもの

日本の食料自給率の現状をしよう。

Q&A 日本の食の実家のためにできること

Q: 食料自給率を上げるにはどうすればいいか? A: 食料自給率を上げるにはどうすればいいか?

食料自給率の目標

2019年度 37% (2018年度 38%) (2020年度 45%)

目標を達成するための施策

- 食料自給率の向上
- 国内産品の消費の促進
- 食料自給率の向上

Q: 日本の食の実家はどのように変わりますか?

食料自給率を上げるにはどうすればいいか? 食料自給率を上げるにはどうすればいいか?

まず食料自給率の変化を紹介します。

昔は食料自給率が83%~73%でしたが現在は38%にまで下がってしまいました。このままでは輸入に頼り切りになってしまいます。

どうやって食料自給率を上げる?

- 1 「今が旬」のものを食べる。
- 2 地元で取れた新鮮なものを食べて、国産のものを応援する。
- 3 バランスの良い食事。
- 4 残さず食べる。

実践を終えて

一人一台端末を活用することの良さとしては、今までできなかったことが簡単にできるということが大きい。今回の事例で言えば、自分の考えを説明したいときに提示したい資料をプロジェクターで映せるということだ。従来であれば黒板に書いたり、ホワイトボードで意見のみを提示したりとアウトプットできる情報量や質に限りがあったが、スライドを活用すれば制限なく、簡単に自分の示したいものを提示することができる。また、意見の交換や蓄積をするには Jamboard が有効だった。自分の意見を付箋に書いて貼り付けることでそれぞれの伝えたいことが1枚のシートに保存される。振り返りにも活用できるので、ぜひ活用すべきツールだと感じた。

本單元において身につけさせたい力が「根拠をもって自分の意見を説明することができる」とことと「多面的・多角的な視点で学習を深めさせたい」である。参考資料1からは「内容を理解した」「～がわかった」などの児童の振り返りが多かった。しかし、スライドや Jamboard を使うことで、ただ用語を理解したり覚えたりするだけにとどまらず、課題を見出し、様々な角度から比較検討し、深める様子が見て取れる。また、スライドを使った発表がわかりやすかったという振り返りもあった。このような児童の変容からも、一人一台端末の積極的な活用が望ましいと考える。